

＜児童発達支援事業＞ 令和3年度 自己評価の結果（公表）

公表 令和4年2月1日  
美瑛町子ども支援センター

この「自己評価の結果（公表）」は、事業所全体で行った自己評価です。

対象者 6名

	チェック項目	はい	いいえ	課題点、工夫している点	改善内容・改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか。	6	0	・割り当てて使用しているが、適切でない時もある	・事前の調整や指導内容を工夫する
	2 職員の数や専門性は適切である	6	0		
	3 生活空間は本人にわかりやすく構造化された環境になっている。設備等はバリアフリー化や情報伝達等への配慮がなされている	6	0		・構造上難しい面もあるが、使いやすい動線考えていく。 ・情報提供についても簡潔で適切な表現を使用していく
	4 生活空間は、清潔で心地よく過ごせる環境になっている。子ども達の活動に合わせた空間になっている	6	0		
業務改善	5 業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に広く職員が参画している	4	2	・職員全員の意識化が必要	・定期的な研修や内部検討を年間計画に盛り込み、より実践に生かせるように改善していく
	6 保護者等に向け評価表を活用する等により、アンケート調査を実施して保護者の意見等を把握し業務改善につなげている。	6	0		・今後も継続して取り組む
	7 自己評価及び保護者評価の結果を踏まえ、事業所としての評価を行い、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	6	0		・保護者配布、施設内掲示、ホームページにも掲載している
	8 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	0	6		・現在調整中
	9 職員の資質向上を行うために、研修の機会を確保している。	6	0	・内部研修、外部研修を実施している	・今後も継続的、多角的な研修を行い、資質の向上に努めていく
適切な支援の提供	10 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で支援計画を作成している	6	0	・客観的な意見も取り入れた計画になっている	
	11 子どもの適応行動の状況を図るために標準化されたアセスメントツールを使用している	6	0	・簡易発達検査を用いたり、発達検査等の客観的なデータを用いながらアセスメントを行っている	
	12 支援計画には「発達支援・家族支援・地域支援」という観点や内容から適切に項目が選択され、具体的な支援内容が設定されている	6	0	・意識的に取り組んでいるが難しいと感じている	・今後も3つの観点を大切にしていく
	13 支援計画に沿った支援が行われている。	6	0	・計画を適宜、見直している	
	14 活動プログラム立案をチームで行っている	6	0	・指導後に評価し、次回の内容の確認をしている	
	15 活動プログラムが固定化されないよう工夫している	6	0	・子どもの発達の状況に応じ、今後も工夫が必要	
	16 子どもの状況に応じて個人活動と集団活動を適宜組み合わせる支援計画を作成している。	6	0	・目標や内容に応じて集団を工夫している	
	17 支援開始前には職員間で必ず打ち合わせをして、その日に行われる支援の内容や役割分担について確認している	6	0	・打ち合わせが不足していると感じることもある	・今後は指導時間のリーダーを決める等して意識的に取り組んでいく
	18 支援終了後には、職員間で必ず打ち合わせをして、その日に行われた支援の振り返りを行い、気づいた点等を共有している	6	0	・その都度共有していくが必要だと感じている	・次回の指導に繋がるように評価、反省を共有する
	19 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	6	0	・記録の視点等の共有を図る	・より効率化できるように工夫していく
20 定期的にモニタリングを行い、支援計画の見直しの必要性を判断している	6	0	・ケース会議等で行っている	・今後も継続していく	
関係機関や保護	21 障害児支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	6	0		
	22 母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	6	0	・常時関係機関との連携を図っている	・今後も現在の社会状況や地域でのニーズの添えるように連携を深める
	23 移行支援として保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校（幼稚部）との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	6	0	・常時関係機関との連携を図っている	・今後も継続していく
	24 移行支援として小学校や特別支援学校（小学部）との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	6	0	・ケース会議や療育支援会議等で情報共有している	・今後も継続していく
	25 他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	6	0	・視察研修、道立専門支援事業等を実施している	・研修機会を増やし、専門性を高めていく

者との連携	26	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流、障害のない子どもと活動する機会がある	5	1		・幼稚園、保育園で実施している子育て支援事業に親子と一緒に参加した例もある
	27	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	6	0	・コーディネーター会議、要対協等に参加している	・積極的に参加していく
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	6	0	・保護者と情報や意見交換を行い共通理解を図っている	・丁寧な対応を継続していく
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対し家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング)等の支援を行っている	5	1	・日ごろからの対話や面談記録等で振り返りができるようにしている	・保護者の主訴に対して適切な情報提供ができるように職員の専門性を高める
保護者への説明責任等	30	運営規定、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	6	0		・丁寧な対応を心掛けていく
	31	児童発達支援のねらいや支援計画を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から支援計画の同意を得ている	6	0	・丁寧な説明に努めている	・丁寧な対応を心掛けていく
	32	定期的に保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援をおこなっている	6	0	・丁寧な説明に努めている	・丁寧な対応を心掛けていく
	33	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	6	0		
	34	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している。	6	0		
	35	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している。	6	0	・定期的に発行し、季節や世相等配慮した内容をしている	
	36	個人情報の取り扱いには十分注意している。	6	0		・個人情報の取り扱いは、今後も細心の注意を払っていく
	37	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている。	6	0		
非常時等の対応	38	行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っている	5	1	・年に1度講演会を実施している	・今年度はコロナ禍での家庭での過ごし方のアンケート調査を実施し、その結果を経て、ネットの利用方法、ルール作り等の大切さについて講演会を行った。その後も広報誌やおたよりなどで啓発に努める。今後もこのような活動を行っていく
	39	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知すると共に発生を想定した訓練を実施している	6	0	・マニュアルを作成し、職員内で共有している	・年間計画に沿って、様々な想定での訓練を実施する
	40	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	6	0	・年間計画を作成し、取り組んでいる	・今後は、保護者にも年間計画を周知し、指導時間内に訓練を実施する
	41	事前に服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認している	6	0		
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	6	0	・保護者から情報を得て、共通理解して取り組んでいる	・全体で共有していく
	43	ヒヤリハットの事例集を作成して事業所内で共有している	6	0	・年度初めに研修を行っている。事故が発生した場合には、職員全員で共有し、対応策を検討している	・今後も、全体で事故防止に努める
	44	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている。	6	0	・研修会に参加し、資料回覧等もしている	・今後も研修を行い、情報を共有していく
	45	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し、了解を得た上で、児童発達支援計画にきさいしている	5	1		・今後も研修を行い、情報を共有していく